

## 社 会（歴史的分野）

### 1 調査の対象となる教科書の発行者及び教科書名

発行者の番号及び略称			教科書名
2	東	書	新編 新しい社会 歴史
17	教	出	中学社会 歴史 未来をひらく
35	清	水	中学 歴史 日本の歴史と世界
46	帝	国	社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き
116	日	文	中学社会 歴史的分野
225	自	由	新版 新しい歴史教科書
227	育	鵬	[新編] 新しい日本の歴史
229	学	び	ともに学ぶ人間の歴史

### 2 教科書の調査研究における観点、視点及び調査方法

観点		視点		方法
(ア)	基礎・基本の定着	①	学習課題の示し方	1時間ごとの学習課題の記載の仕方と記載例
		②	我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫	歴史上の人物の掲載数及び現代で扱われている人物の掲載数と人物名 文化遺産の示し方、神話・伝承等に関する事例数と記載内容
		③	国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けさせる工夫	歴史に見られる国際関係や文化交流に関するコラム等の数と具体例
(イ)	主体的に学習に取り組む工夫	④	興味・関心を高めるための工夫	導入における興味・関心を高める問いや資料の記載とその具体例
		⑤	課題の設定、整理・分析、振り返りを展開するための構成上の工夫	歴史を調べる手順・方法及び記載の仕方
		⑥	作業的・体験的な学習を実施するための工夫	作業的・体験的な学習の具体例
(ウ)	内容の構成・配列・分量	⑦	単元や資料等の配列・分量	各時代区分のページ数
		⑧	発展的な学習に関する内容の記載状況	発展的な学習の事例数と事例及び思考を深める問いや手立て
(エ)	内容の表現・表記	⑨	学習内容との適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用	資料の種類と掲載数及び折り込み年表の扱い
		⑩	本文以外の記述の工夫	問いやまとめの記載の仕方
(オ)	言語活動の充実	⑪	多面的・多角的に考察させるための工夫	単元末における多面的・多角的に考察させる具体例
		⑫	目的に応じて適切に表現する力を育てるための工夫	まとめ方の種類と具体例

<b>観点</b>	<b>(ア) 基礎・基本の定着</b>
<b>視点</b>	①学習課題の示し方
<b>方法</b>	1時間ごとの学習課題の記載の仕方と記載例

	1時間ごとの学習課題の記載の仕方	記載例
<b>東書</b>	○ 見開きごとにタイトルを「武士の成長」「武士の政権の成立」等の項目で示し、タイトル右横に「どのような」「どのように」等の問いかけの形態で1時間の追究する課題を提示している。	<p>1節 武士の台頭と鎌倉幕府</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 武士はどのように成長していったのでしょうか。</li> <li>○ 武士はどのようにして政治の実権をにぎったのでしょうか。</li> <li>○ 鎌倉を中心とした武士の政権は、どのような特色を持っていたのでしょうか。</li> <li>○ 鎌倉時代の人々は、どのような暮らしをしていたのでしょうか。</li> <li>○ 鎌倉時代の文化や宗教は、どのような特色を持っていたのでしょうか。</li> </ul>
<b>教出</b>	○ 見開きごとにタイトルを「海から押し寄せる元軍」「このごろ都にはやるもの」等の項目で示し、タイトル右横に「元寇と鎌倉幕府の滅亡」「南北朝の内乱と室町幕府の成立」等の学習事項を表す副題を示している。タイトル下に「なぜ」「どのように」等の問いかけの形態で1時間の追究する課題を提示している。	<p>1 世界の動きと武家政治の始まり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ モンゴル帝国は、世界にどのような影響を与えたのでしょうか。</li> <li>○ 武士はどのようにしておこり、政治の実権を握るようになったのでしょうか。</li> <li>○ 鎌倉幕府は、武士たちをどのようにまとめていったのでしょうか。</li> <li>○ 武家政治は、どのように広まっていったのでしょうか。</li> <li>○ 鎌倉時代には、民衆はどのような暮らしをし、どのような文化が生まれたのでしょうか。</li> </ul>
<b>清水</b>	○ 見開きごとにタイトルを「元寇と鎌倉幕府の滅亡」「建武の新政と室町幕府」等の項目で示し、タイトル右横に「なぜ」「どのような」等の問いかけの形態で1時間の追究する課題を提示している。	<p>第1節 武士の政権と東アジアのうごき</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 唐王朝がおとろえたあとの東アジアには、どのような勢力が生まれたのだろうか？</li> <li>○ 平氏が権力を握ることができたのはなぜだろうか？</li> <li>○ 源頼朝は、なぜ武士の支持を集めたのだろうか？</li> <li>○ 鎌倉時代の武士や農民の生活には、どんな特色があるだろうか？</li> <li>○ 鎌倉時代の仏教や文化の特色はどのようなものだろうか？仏教を信仰した人びとや、文化の中心となった人びとに注目して考えてみよう。</li> <li>○ 元寇とはどのようなもので、それは幕府の支配にどのような影響をあたえたのだろうか？</li> </ul>
<b>帝国</b>	○ 見開きごとにタイトルを「海をこえてせまる元軍」「南北朝の内乱と新たな幕府」等の項目で示し、タイトル左横に「どのような」「どのように」等の問いかけの形態で1時間の追究する課題を提示している。	<p>第1章 武士の世の始まり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 武士はどのようにして現れ、またどのように成長していったのでしょうか。</li> <li>○ 平氏はどのように実権をにぎり、どのような政治を行ったのでしょうか。</li> <li>○ 鎌倉を中心とした武家政権は、どのような特徴をもっていたのでしょうか。</li> <li>○ 鎌倉時代にはどのような特色をもった文化が展開したのでしょうか。</li> </ul>

【社会（歴史的分野）】

<p>日 文</p>	<p>○ 見開きごとにタイトルを「元の襲来と鎌倉幕府」「南北朝の内乱と室町幕府」等の項目で示し、タイトル左横に「どのような」「どのように」等の問いかけの形態で1時間の追究する課題を提示している。</p>	<p>1 鎌倉幕府の成立</p> <p>○ 平氏は、どのような政治をしようとしたのだろうか。</p> <p>○ 源頼朝が始めた政治は、どのような特色があるのだろうか。</p> <p>○ 鎌倉時代の人々のくらしは、古代までのくらしと比べて、どのような変化があったのだろうか。</p> <p>○ 鎌倉時代の文化と宗教に、どのような新しい動きがみられるようになったのだろうか。</p> <p>○ 元の襲来は、鎌倉幕府や御家人にどのような影響をあたえたのだろうか。</p>
<p>自 由 社</p>	<p>○ 見開きごとにタイトルを「元寇」「建武の新政と南北朝の時代」等の項目で示し、タイトル下に「なぜ」「どのように」等の問いかけの形態で1時間の追究する課題を提示している。</p>	<p>第1節 武家政治の始まり</p> <p>○ 平氏は繁栄から滅亡へ、どのように進んだのだろうか。</p> <p>○ 初めての武士の政権である鎌倉幕府は、どんな特徴をもっていたのだろうか。</p> <p>○ 日本はなぜ元の襲来をはね返すことができたのだろうか。</p>
<p>育 鵬 社</p>	<p>○ 見開きごとにタイトルを「元寇と鎌倉幕府のおとろえ」「建武の新政と南北朝の動乱」等の項目で示し、タイトル下に「どのような」「どのように」等の問いかけの形態で1時間の追究する課題を提示している。</p>	<p>第1節 武家政治の成立</p> <p>○ 武士はどのような役割をもって登場し、力をのばしていったのだろうか。</p> <p>○ 鎌倉幕府はどのようなしくみをもっていたのだろうか。</p> <p>○ 鎌倉時代、武士や農民はどのような生活をしていただろうか。</p> <p>○ 武士の時代、宗教や文化はどのように変わっていったのだろうか。</p> <p>○ 元との戦いは幕府にどのような影響をあたえたのだろうか。</p>
<p>学 び 舎</p>	<p>○ 見開きごとにタイトルを「一つにつながるユーラシア」「悪党の世の中」等の項目で示し、タイトル右横に「モンゴル帝国」「南北朝の内乱と室町幕府」等の学習事項を表す副題を示している。見開きごとには課題を提示していないが、章ごとに「どのような」「どのように」等の問いかけの形態で学習課題を提示している。</p>	<p>第2部 中世 第3章 武士の世</p> <p>章のはじめに中世の学習課題として記載。</p> <p>○ 馬や船に乗って、人びとは行き来しました。武士や軍団は、力をしめして支配者となりました。農業や交易が生活と文化を豊かにしました。大きく変わっていく日本と世界の動きをとらえます。地図や絵巻物などからも読みとることができます。武士の世は、古代の社会と比べて、どのように変わっていくのでしょうか。</p>

【社会（歴史的分野）】

<b>観点</b>	<b>(ア) 基礎・基本の定着</b>
<b>視点</b>	②我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫
<b>方法</b>	歴史上の人物の掲載数及び現代で扱われている人物の掲載数と人物名

	索引人名数	現代で扱われている人物の数	「現代の日本と世界」で扱われている人物名 (索引に記載しているもの)
東書	346	46	池田勇人, 江崎玲於奈, エディソン, 王貞治, 大江健三郎, 川端康成, 岸信介, 黒澤明, ケネディ, 小泉純一郎, 小柴昌俊, 小林誠, ゴルバチョフ, 佐藤栄作, 司馬遼太郎, 下村脩, 昭和天皇, 白川英樹, 鈴木章, 大鵬, 田中角栄, 田中耕一, 手塚治虫, 東条英機, 鄧小平, 利根川進, 朝永振一郎, 長嶋茂雄, 南部陽一郎, 根岸英一, ネルー, 野依良治, 鳩山一郎, 福井謙一, ブッシュ, フルシチョフ, ペリー, 細川護熙, 益川敏英, マッカーサー, 松本清張, 宮崎駿, 毛沢東, 山中伸弥, 湯川秀樹, 吉田茂
教出	362	25	アイゼンハワー, 安倍晋三, 池田勇人, オバマ, カストロ, 嘉納治五郎, 川端康成, 岸信介, 金正日, 黒澤明, ケネディ, 小泉純一郎, ゴルバチョフ, 佐藤栄作, 周恩来, 昭和天皇, 田中角栄, ネルー, プーチン, ブッシュ, フルシチョフ, マッカーサー, 毛沢東, 湯川秀樹, 吉田茂
清水	240	8	ゴルバチョフ, 佐藤栄作, 田中角栄, 鄧小平, ブッシュ, 毛沢東, マッカーサー, 吉田茂
帝国	311	32	池田勇人, 王貞治, 大江健三郎, 岡本太郎, 小澤征爾, 川端康成, 岸信介, 黒澤明, 小泉純一郎, ゴルバチョフ, 佐藤栄作, 司馬遼太郎, 蒋介石, 昭和天皇, 白井義男, 大鵬, 田中角栄, 手塚治虫, 長嶋茂雄, 鳩山一郎, 古橋廣之進, 細川護熙, マッカーサー, 松本清張, 美空ひばり, 宮崎駿, 村山富市, 毛沢東, 湯川秀樹, 吉田茂, 力道山, 若乃花
日文	259	13	池田勇人, 萱野茂, 岸信介, 佐藤栄作, 昭和天皇, 田中角栄, 周恩来, ネルー, 鳩山一郎, 細川護熙, 毛沢東, マッカーサー, 吉田茂
自由社	265	28	池田勇人, 石原慎太郎, 小津安二郎, 川端康成, 岸信介, 黒澤明, ゴルバチョフ, 佐藤栄作, 司馬遼太郎, 蒋介石, 昭和天皇, 鈴木貫太郎, スターリン, 田中角栄, 手塚治虫, トルーマン, ニクソン, 八田與一, パル, フルシチョフ, 松本清張, 三島由紀夫, 美空ひばり, 宮崎駿, 毛沢東, 湯川秀樹, 吉田茂, レーガン
育鵬社	436	57	明仁親王, 安倍晋三, 池田勇人, 石橋湛山, 石原慎太郎, 石原裕次郎, 今村昌平, 江崎玲於奈, 王貞治, 大江健三郎, オバマ, 川端康成, 岸信介, 黒澤明, ケネディ, 小泉純一郎, 香淳皇后, 小柴昌俊, 小林誠, 佐藤栄作, 下村脩, 周恩来, 蒋介石, 昭和天皇, 白川英樹, 大正天皇, 大鵬, 太宰治, 田中角栄, 田中耕一, ダライ・ラマ 14 世, 手塚治虫, 利根川進, 朝永振一郎, 長嶋茂雄, 南部陽一郎, ニクソン, 野依良治, パール, 鳩山一郎, 福井謙一, 藤田嗣治, フルシチョフ, 古橋廣之進, 益川敏英, マッカーサー, 三島由紀夫, 溝口健二, 美空ひばり, 宮崎駿, 棟方志功, 明治天皇, 毛沢東, 山中伸弥, 湯川秀樹, 吉田茂, 力道山
学び舎	356	36	朝日茂, 池田勇人, 石田雅子, 大江健三郎, 大田昌秀, 岸信介, 金学順 (キムハクスン, きんがくじゅん), 久保山愛吉, 黒澤明, 小林トミ, 佐々木禎子, 佐藤栄作, 昭和天皇, 鈴木安蔵, 石成基 (ソクソンギ, せきせいき), ダーヒンニェニ=ゲンダース, チャスラフスカ, 手塚治虫, 中沢啓治, ネルー, 長谷川町子, 藤子・F・不二雄, マーチン=ルーサー=キング, 眞榮城玄徳, 毛沢東 (マオツオトン, もうたくとう), マッカーサー, 松本清張, マララ=ユサフザイ, マルタ=クビショバ, 宮崎駿, 山口シヅエ, 呂運亨, 吉田茂

<b>観点</b>	<b>(ア) 基礎・基本の定着</b>
<b>視点</b>	②我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫
<b>方法</b>	文化遺産の示し方、神話・伝承等に関する事例数と記載内容

	文化遺産の示し方	神話・伝承等に関する事例数	神話・伝承等に関する記載内容
<b>東書</b>	資料に「国宝」「重要文化財」「世界遺産」のマークが付いている。	5	<p>【本文】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「国のおこりや大和政権の王たちについての神話や伝承も、次第にまとめられていきました。」</li> <li>○ 「国家の仕組みが整い、国際的な交流が盛んになると、日本の国のおこりや、天皇が国を治めてきた歴史を確かめようとする動きがおこりました。神話や伝承、記録などを基にした歴史書の『古事記』と『日本書紀』、地方の国ごとに、自然、産物、伝説などを記した『風土記』がまとめられました。」</li> </ul> <p>【読み物資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 深めよう「現代に受けつがれる神話」2ページで、「『記紀神話』の成立」「『記紀神話』の展開」「日本の神話と世界の神話」「島根県と神話」「宮崎県と神話」を紹介している。</li> </ul>
<b>教出</b>	資料に「世界遺産」「国宝」「重要文化財」のマークが付いている。	3	<p>【本文】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「国家のしくみが整った8世紀には、神話や国の成り立ちを記した『古事記』・『日本書紀』という歴史書や、地方の地理・伝承などを国ごとに記した『風土記』がつくられました。」</li> </ul> <p>【読み物資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 資料から歴史を探ろう「神話にみる古代の人々の信仰」2ページで、「日本の神話」「古事記に記された黄泉の国の物語」「神話にみる古代の人々の信仰ともの見方」を紹介している。</li> </ul>
<b>清水</b>	資料に「世界遺産」「国宝」のマークが付いている。	3	<p>【本文】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「朝廷では天皇家や貴族などに伝えられていた神話や地名などにまつわる伝承・記録などを、天皇を中心とした国の成り立ちとしてまとめなおし、8世紀はじめには『古事記』・『日本書紀』（記紀）として完成した。また、国ごとに地理や産物、『記紀』とはちがう言い伝えなどをまとめた『風土記』をつくらせた。」</li> </ul> <p>【読み物資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ もっと知りたい歴史「神話と伝承」2ページで、「『風土記』をつくる」「『風土記』の神話と『記紀』神話」「出雲国風土記」の神話と伝承」を紹介している。</li> </ul> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「神話と伝承」を説明するコーナーを設けている。</li> </ul>
<b>帝国</b>	資料に「世界遺産」「国宝」のマークが付いている。	3	<p>【本文】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「天皇が日本を治めることの正統性を明らかにしようとする動きも起こり、天皇家の由来を説明するための歴史書として『古事記』や『日本書紀』がつくられ、かずかずの神話がそこへ記されました。また、天皇が支配するすべての土地の地理的な情報を集めるため、産物や地名の由来、伝承などを国ごとにまとめた『風土記』もつくられました。」</li> </ul> <p>【コラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「古事記」と「日本書紀」が伝える神話で、「国生みの神話」「天孫降臨の神話」「ヤマタノオロチの神話」を紹介している。</li> </ul>
<b>日文</b>	資料に「世界遺産」「国宝」のマークが付いている。	1	<p>【本文】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「律令国家のしくみが整うにつれて、国家のおこりや古代の国家の中心となる天皇の由来などを説明するために、『古事記』や『日本書紀』などの歴史書がつくられました。このほか、全国の国ごとに、自然・産物・地理や伝説などを集めた『風土記』もまとめられました。」</li> </ul> <p>【コラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 古代史+αで「日本の神話」について紹介している。</li> </ul>

【社会（歴史的分野）】

<p>自由社</p>	<p>資料に「国宝」「重要文化財」のマークが付いている。</p>	<p>7</p>	<p>【本文】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「神話が語る国の始まり」というタイトルで2ページにわたって本文で記載している。             <ul style="list-style-type: none"> <li>『古事記』『日本書紀に書かれた神話・伝承』</li> <li>「日本の国の成り立ちは、8世紀に完成した日本でもっとも古い歴史書である「古事記」「日本書紀」に神話の形で書かれている。神話や古い伝承は超自然的な物語をふくみ、ただちに歴史的事実として扱うことはできない。しかし、これらの神話・伝承は、古代の人々が、自分たちの住む国土や自然、社会の成り立ちを、山や海への自然崇拝や、稲作祭祀など縄文・弥生以来の信仰なども取り入れながらまとめたものと考えられる。神々が織りなす物語は一貫したストーリーに構成され、大和朝廷の始まりにつながっている。</li> </ul> </li> <li>【本文中の学習項目】</li> <li>「イザナキ・イザナミとアマテラスの誕生」「オオクニヌシの神と出雲神話」「天孫降臨と神武天皇」を紹介している。</li> <li>【注釈等】</li> <li>「神話が語る国の始まり」のページで4つの注釈と1つの解説を記載している。</li> <li>○ 「記紀の編纂と大仏造立」の学習事項で「記紀の編纂」を記載している。</li> <li>【本文】</li> <li>「天武天皇は、律令国家のしくみが整うのに合わせて、国のおこりや歴史をまとめることを命じ、その編纂事業は次代の天皇に引きつがれた。712年に『古事記』が完成し、全3巻の中に、民族の神話と歴史がすじみち立った物語としてまとめられた。次いで、720年には『日本書紀』全30巻が完成し、中国の王朝にならった国家の正史として、歴代の天皇の系譜とその事績が詳細に記述された。」</li> <li>・資料として「古事記と日本書紀」を記載している。</li> <li>【読み物資料】</li> <li>○ 「国譲り神話と古代人」2ページで、「大国主神の『国譲り』」「古代日本人のものの考え方」「姿をあらわす巨大空中神殿」を紹介している。</li> </ul>
<p>育鵬社</p>	<p>資料に「世界遺産」「国宝」のマークが付いている。</p>	<p>3</p>	<p>【本文】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「律令国家としての基礎ができあがるにつれ、わが国の歴史が書物としてまとめられるようになりました。神々の物語や代々の天皇の業績を記した『古事記』や国の正史として代々の天皇やその業績を記した『日本書紀』がそれにあたります。また、朝廷の命令によって、各地の地理や産物、伝説などを記した『風土記』もつくられました。」</li> <li>【読み物資料】</li> <li>○ 「神話に見るわが国誕生の物語」2ページで、「日本の神々の物語」「三種の神器と神武天皇」「伝説の英雄が活躍する神話」を紹介している。</li> </ul>
<p>学び舎</p>	<p>世界遺産や史跡を写真や地図で紹介している。</p>	<p>2</p>	<p>【本文】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「朝廷は、仏教だけでなく、日本の歴史や神話の本の編さんも重視しました。少し時代はさかのぼりますが、天武天皇の命令によって、記録や語り伝えられてきたことをまとめる事業がはじまりました。奈良時代になって、中国にならった歴史書として『日本書紀』、神話の記録として『古事記』が完成しました。これらは、国の統一をすすめる目的でつくられたものですが、古くから伝えられた伝承もふくんでいました。太陽の女神とされる天照大神が、天から地上に神々をつかわし、その子孫が国を平定して、最初の天皇になったという神話は、そこに記録されたものです。また、出雲国（島根県）や常陸国（茨城県）など、国ごとに言い伝えられたことを記した『風土記』もまとめられました。</li> <li>【コラム】</li> <li>○ 『常陸国風土記』に書かれた富士山と筑波山」を掲載している。</li> </ul>

【社会（歴史的分野）】

<b>観点</b>	<b>(ア) 基礎・基本の定着</b>
<b>視点</b>	③国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けさせる工夫
<b>方法</b>	歴史に見られる国際関係や文化交流に関するコラム等の数と具体例

	時代区分 (コラム等の数)	具体例
<b>東 書</b>	古代まで (1)	○ 古代のオリンピック
	中世 (2)	○ ユーラシア世界史の誕生 ○ 東アジア世界の朝貢体制と琉球王国
	近世 (3)	○ 有田焼のルーツ ○ 朝鮮通信使が訪れた対潮楼 ○ 歴史の中のイスラム文化
	近代 (8)	○ ペリーの来航と台場 ○ エルトゥールル号遭難事件 ○ 日露戦争と「マツヤマ」 ○ 孫文と日本 ○ ジャポニスム ○ 欧米化する暮らしと女性 ○ 「命のビザ」 ○ 北海道とアイヌ民族の歴史
	現代 (7)	○ 原水爆禁止運動 ○ ベトナム戦争 ○ 日本の領土をめぐる問題とその歴史 ○ 日本の漫画とアニメ ○ 中国の経済発展 ○ 歴史の中の大地震 ○ 人類の歴史とエネルギー
<b>教 出</b>	古代まで (1)	○ 古代中国の歴史書に記された倭
	中世 (1)	○ オホーツク文化と擦文文化
	近世 (6)	○ ほろぼされた中南アメリカの文明 ○ 銀で結びつく世界 ○ 宣教師が見た日本 ○ 野國聰管と青木昆陽 ○ ペリーの那覇・函館寄港 ○ 幕末の国際交流～海を渡った武士たち
	近代 (8)	○ 北海道の開拓とアイヌの人たち ○ 琉球処分～琉球王国の終わり ○ 山川（大山）捨松と津田梅子 ○ アイヌの文化を伝えた人たち ○ 台湾の植民地化 ○ 海外へ移住した日本人 ○ 日本人が見た三・一独立運動 ○ 後藤新平と杉原千畝
	現代 (6)	○ 中東戦争 ○ 歴史のなかの在日韓国・朝鮮人 ○ キューバ危機 ○ アラブの春 ○ 隣国と向き合うために ○ 平和を願う人々と平和の祭典「オリンピック」
<b>清 水</b>	古代まで (8)	○ 植物と日本人 ○ ローマ帝国と漢 ○ 朝貢のしくみ ○ 渡来人 ○ イスラーム帝国と東西交流 ○ 玄奘 ○ イスラーム帝国と唐 ○ 阿倍仲麻呂
	中世 (2)	○ モンゴル帝国の拡大 ○ アジアの船と海上交通
	近世 (7)	○ 鉄砲の普及 ○ 天正遣欧少年使節 ○ 秀吉の朝鮮侵略 ○ 身近な南蛮文化 ○ 雨森芳洲 ○ 大黒屋光太夫 ○ 蘭学と幕府
	近代 (7)	○ 世界見学に出かけた日本人 ○ 植民地となる前の台湾 ○ 孫文 ○ 柳宗悦 ○ 行き来する留学生 ○ 明治・大正期の食生活～洋食の成立～ ○ ナチスの政策
<b>帝 国</b>	古代まで (7)	○ 孔子 ○ 「魏志」倭人伝から見る邪馬台国 ○ キトラ古墳にみる中国の思想 ○ 正倉院の宝物が語る大陸との交流 ○ 古代のタイムカプセル、正倉院 ○ 鑑真 ○ 唐にわたった二人の若き僧侶
	中世 (4)	○ 北と南を襲ったもう二つの蒙古襲来 ○ 栄西 ○ 東アジアの美、磁器 ○ 北海道の独自の文化
	近世 (7)	○ 世界の銀を支えた石見銀山 ○ 朝鮮半島から伝わった文化 ○ 山田長政 ○ 島原・天草一揆に現れた外国船のなぞ ○ 琉球とアイヌの人々の暮らし ○ 昆布ロードと北前船 ○ 世界にほこる江戸時代の技術と浮世絵

【社会（歴史的分野）】

	近代（23）	○ 高杉晋作 ○ 勝海舟 ○ 世界に開かれた港 横浜 ○ 移住と開拓が進む北海道 ○ 中華街の形成 ○ 日本に対するアジア諸国の二つの感情 ○ ウィルソン ○ 人種差別撤廃への道 ○ 朝鮮との架け橋となった日本人 ○ 抗日民族統一戦線をつくった指導者 ○ 幻の東京オリンピック ○ インドネシアで使われている教科書では…	○ ペリー ○ 福沢諭吉 ○ 沖縄をめぐるさまざまな意見 ○ 台湾の植民地化と近代化 ○ 日本と中国をつないだ人々 ○ 国旗と国歌 ○ 祖国の音楽を紹介したドイツ兵 ○ 戦場となった沖縄 ○ 芸術にこめた反戦の意志 ○ 長野県からみる「満州」移民 ○ ドイツのユダヤ人迫害に抵抗した日本人
	現代（11）	○ シベリアでの抑留生活 ○ 核兵器開発競争と日本 ○ 日本の領土と近隣諸国 ○ 現在に残る沖縄の基地問題 ○ 日本における先住民 ○ 世界に広がる日本の伝統と文化	○ 植民地の独立 ○ 在日韓国・朝鮮人 ○ キューバを舞台にした冷戦 ○ 芸術面で活躍した日本人 ○ エルトゥールル号のきずな
日 文	古代まで（4）	○ 儒教 ○ 磐井の乱 ○ いつから「日本」と「天皇」が使われるようになったの？	○ 日本の食生活のルールを探る
	中世（2）	○ 宋と高麗	○ 海底から姿を現した元の軍船
	近世（4）	○ イスラムの文化 ○ 天正少年使節	○ つながる世界と生活の変化 ○ 石見銀山
	近代（12）	○ 新しい世の中をめざした人々 ○ 近代的な国際秩序への参加 ○ 富岡製糸場を調べる ○ エルトゥールル号遭難事件 ○ 三・一独立運動を支持した日本人 ○ 日本の満州支配に反対したジャーナリスト ○ 新渡戸稲造と杉原千畝	○ 朝鮮の開国 ○ 近代社会に日本を見つめ直す ○ 孫文と日本 ○ 山本作兵衛の炭坑記録画 ○ 日本人の海外移民
	現代（6）	○ シベリア抑留と中国残留孤児 ○ 平和条約に調印しなかった国 ○ ベトナムとアフガニスタン	○ 平和記念都市建設と原水爆禁止運動 ○ 韓国・中国との国交正常化と現在の課題 ○ アイヌと沖縄の近代と現代
	自 由 社	古代まで（6）	○ 盗みがなく、争いの少ない社会 ○ 日本という国名の起り ○ 仏像の見方
中世（2）		○ 元寇と朝鮮半島	○ 「日本国王」になった足利義満
近世（5）		○ 秀吉とフェリペ2世 ○ 秀吉はなぜバテレンを追放したのか ○ 浮世絵とジャポニスム	○ 宣教師の見た日本 ○ 正確な日本地図をつくった伊能忠敬
近代（20）		○ 廃藩置県を武士はどう受けとめたか ○ 琉球処分とは何か ○ 幕末・明治期の日本人の生き方 ○ 福沢諭吉の『学問のすすめ』と「脱亜論」 ○ 明治国家を背負った政治家 伊藤博文 ○ アメリカの対日砲艦外交 ○ 日英同盟はなぜ廃棄されたか ○ 日本と中国はなぜ和平を実現できなかったのか ○ 迫害されたユダヤ人を助けた日本人樋口季一郎と杉原千畝 ○ 創氏改名とは何か ○ 大東亜戦争とアジアの独立 ○ 日本を解放軍としてむかえたインドネシアの人々	○ 明治維新とは何か ○ 日本の近代化とアイヌ ○ フランス料理と黒の喪服 ○ 金玉均と甲申事変 ○ 日露戦争を戦った日本人 ○ 世界が見た日露戦争 ○ ブロック経済と日本 ○ 戦時国際法と戦争犯罪
現代（5）		○ 占領下の検閲と東京裁判 ○ 日本の底力を世界に示した昭和39年の東京オリンピック ○ 勇気と友情の物語世界と交流した近代日本 ○ 東日本大震災と日本人	○ 戦争と全体主義の犠牲者
育 鵬 社	古代まで（5）	○ ローマ帝国と日本の古墳時代 ○ 大仏開眼供養 ○ 天皇と皇帝一聖徳太子の気概	○ 日本人の宗教観 ○ 最澄と空海
	中世（2）	○ ユーラシアを一つにつないだモンゴル	○ 世界文化遺産・石見銀山

【社会（歴史的分野）】

学び舎	近世（6）	○ ルネサンスと宗教改革 ○ 世界文化遺産・富士山と日本人 ○ 江戸の技術	○ 宣教師の見た日本 ○ 支倉常長—幻となったメキシコ貿易の夢 ○ 浮世絵の影響—ジャポニスム
	近代（17）	○ わが国固有の領土である国境の島々 ○ 近代国民国家の形成 ○ 台湾にダムをつくった八田與一 ○ 明治を築いた二人—伊藤博文と渋沢栄一 ○ フェノロサと救世観音 ○ 世界の平和に力をつくした新渡戸稲造 ○ 杉原千畝と樋口季一郎 ○ トインビーが見た「第二次世界大戦と日本」 ○ 昭和20年、戦局の悪化と終戦	○ 外国人が見た日本 ○ 陸奥宗光—条約改正と日清戦争の立役者 ○ 日露戦争の舞台裏 ○ お雇い外国人 ○ 幻の人種平等案 ○ 幻の東京オリンピック ○ 何がアメリカ国民を戦争に導いたのか ○ 列強の植民地とアジアの民族運動
	現代（4）	○ 東京裁判 ○ 冷戦の終結 ○ 1964年と2020年東京オリンピック・パラリンピック	○ 核と世界
	古代まで（5）	○ 今でも読まれる孔子の『論語』 ○ 「魏志倭人伝」が伝える倭人の生活と社会 ○ 遣隋使と中国皇帝は何を語ったか ○ アラビア数字とローマ数字	○ 「日本」と「天皇」
	中世（6）	○ 火薬の発明 ○ 元を攻撃したカラフト（サハリン）のアイヌ ○ 朝鮮の文字・ハングルがつくられる ○ アイヌの人びとがになう北方の交易	○ 海をわたる禅僧たち ○ 朝鮮の使節が見た日本の農業
近世（6）	○ マゼラン艦隊の世界一周 ○ 島津氏の奄美群島と琉球王国への侵攻 ○ 琉球王国の使節	○ ザビエルとアンジロー ○ 朝鮮の武将となった沙也可 ○ ロシア皇帝に面会した光太夫	
近代（16）	○ アヘン戦争と江戸幕府・琉球王国 ○ 6歳の女子留学生 ○ 戦火に追われる人びと ○ アジア・アフリカと第一次世界大戦 ○ 辛亥革命後の変化 ○ 日本の満州開拓と中国人農民 ○ 地下道を掘って戦う ○ アメリカが原爆を投下した理由	○ アームストロング砲とミニエー銃 ○ 東京に出て日本語を学んだアイヌの人たち ○ 増える日本人 ○ 声を上げる学生たち ○ 『モダン・タイムス』と『独裁者』 ○ 消えた東京オリンピック ○ 朝鮮・台湾の人びとと日本の戦争 ○ 連合国の動きと国際連合の成立	
現代（11）	○ 日本国憲法と旧植民地の人びと ○ インディラがやってきた ○ 被爆者の心を世界に伝える高校生 ○ あい次ぐ米軍機の事故 ○ 私の土地は基地の中にある—真栄城玄德と祖母カミ ○ 問い直される人権の侵害	○ 日本と朝鮮戦争 ○ インドネシアの独立 ○ 東京オリンピック ○ 私はだれなのですか ○ 原発事故は警告されていた	

<b>観点</b>	(イ) 主体的に学習に取り組む工夫
<b>視点</b>	④興味・関心を高めるための工夫
<b>方法</b>	導入における興味・関心を高める問いや資料の記載とその具体例

	導入における興味・関心を高める問いや資料の記載	具体例
東書	○ 大項目の導入において、1ページにより、絵図を掲載するとともに、人物や事象のイラストを用いた年表を掲載し、前ページのこの時代の歴史の学習を確認しようの年表とつなげている。さらに、見開き2ページで歴史的事象を時代順に配置し、キャラクターの問いによって、学習への興味・関心を高めている。	「開国と近代日本の歩み」 ○ 1ページ目でペリーの上陸の絵を示すとともに、政治、経済・社会・文化、東アジア、欧米などの項目ごとに、主なできごとを年表にまとめている。 ○ 開国、文明開化、富国強兵、自由民権運動、大日本帝国憲法、日清戦争・日露戦争、条約改正、国際的地位の向上の写真や絵を時代順に並べている。 ○ キャラクターによる問いや説明を示している。 ・「ペリーってどんな人なのかな。」 ・「海には、とても大きな船がたくさん見えるよ。」 ・「とても多くの人物が登場していますね。」 ・「世の中は、どのように変化していったのでしょうか。」 ・「この時代がどのような時代か、イメージできましたか？」 ・「それでは、日本の歴史を学習する前に、このころの世界の様子を見てみましょう。」

【社会（歴史的分野）】

<p>教 出</p>	<p>○ 大項目の導入において、1ページにより、絵図で歴史的事象を示すとともに、年表で、これから学習する時代を示している。また、キャラクターの問いを受けて、もう一人のキャラクターが話し言葉で学習内容を説明することで、学習への興味・関心を高めている。</p>	<p>「近代の日本と世界」</p> <p>○ 江戸湾に現れた軍艦の絵を示すとともに、年表で日本、中国、朝鮮の時代区分を示している。</p> <p>○ キャラクターによる問いや説明を示している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「18世紀までは、主に中国とオランダの貿易船が、長崎に来るぐら이었다よね。この軍艦は、どのような目的で来たのかな。」</li> <li>・「上の絵は、19世紀の中ごろ、江戸湾に軍艦が現れた時の様子を描いたものです。それまで鎖国下にあった日本には、どのような変化が生まれたのか、これから学習していくことにしましょう。」</li> </ul>
<p>清 水</p>	<p>○ 大項目の導入において、1ページにより、写真や絵図で歴史的事象を示すとともに、全ての歴史学習の中のどの期間の学習をするかが分かる年表を示している。また、学習する時代の吹き出しに学習内容を示すとともに、さらに写真や絵図の人物等が話し言葉で、学習への興味・関心を高めている。</p>	<p>「近代化の進む世界と日本」</p> <p>○ 19世紀の蒸気機関車、新橋駅と蒸気機関車、岩倉使節団、井伊直弼、憲法発布式典、日本海海戦の写真や絵図を掲載している。</p> <p>○ 絵や写真に吹き出しをつけ、問いを示している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「蒸気機関にはじまる産業革命は世界をどう変えていったらう。」</li> <li>・「私がアメリカと条約をむすぶ決断をしたのはなぜでしょう。」</li> <li>・「明治政府のリーダーたちがめざしていたのはどんな国家だったのらう。」</li> </ul> <p>○ 年表を示し、近代ってどんな時代か問いかけている。</p>
<p>帝 国</p>	<p>○ 大項目の導入において、2ページにより、絵図で歴史的事象を示すとともに、写真や絵図の人物を用いた年表を掲載している。また、江戸時代と明治時代の違いに着目し、時代の特色を考察させることにより興味・関心を高めている。</p>	<p>「近代国家の歩みと国際社会」</p> <p>○ 明治時代の導入において、明治時代をながめてみよう（1880～90年代ごろのある場面）で、人々の暮らしの様子を絵図で示すとともに、学習内容を説明している。</p> <p>○ 絵図の中から、次の場面を探してみよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「たくさんのまゆを、製糸工場に運んでいます。」</li> <li>・「郵便局の前にあるポストに、手紙を投函しています。」</li> <li>・「装備を整えた軍隊が、行進しています。」</li> <li>・「子どもたちが、教室で授業を受けています。」</li> <li>・「警察官が、力づくで演説会を中止させています。」</li> <li>・「駅のホームに、『SILK』と書かれた荷物が積まれています。」</li> </ul> <p>○ 歴史的事象を人物の絵図とともに、年表に示している。</p>
<p>日 文</p>	<p>○ 大項目の導入において、見開き2ページにより、写真や絵図等によって歴史的事象を示し、次の見開きで、19世紀後半の日本と世界というタイトルとともに、絵図、地図、年表を掲載している。また、キャラクターの話し言葉で、学習への興味・関心を高めている。</p>	<p>「近代の日本と世界」</p> <p>○ 最初の見開きで、1869年に江戸城に入る天皇の絵、解体された小田原城天守の写真、1872年に明治政府によってつくられた官営模範工場の富岡製糸場の絵、江戸幕府と明治政府の歳出の比較のグラフ、各々の資料の所在地を示した日本地図を掲載している。また、次の見開きで、地図、年表、絵図を掲載するとともに、学習内容を説明している。</p> <p>○ キャラクターによる問いを示している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「江戸幕府の将軍がいた江戸城の新しい主として、天皇が入城するようすです。なぜ、天皇が江戸城に入ったのらう。」</li> <li>・「武家を象徴する城の天守閣がこわされるなんて。どんな世の中になるのらう。」</li> </ul> <p>・図①～④から、19世紀の日本がどのように変化したかを読み取り、話し合おう。</p> <p>・P. 98～99の世界のようすと見比べてみよう。アジアやアフリカ、アメリカ大陸などがどのように変化しているか、欧米諸国の勢力にどのような変化があるのかを読み取ってみよう。</p>
<p>自 由 社</p>	<p>○ 大項目の導入において、1ページにより、写真で歴史的事象を示している。また、キャラクターの話し言葉で、学習への興味・関心を高めている。</p>	<p>「近代の日本と世界（Ⅰ）」幕末から明治時代</p> <p>○ 久松五勇士記念碑の写真と石碑の絵を拡大した絵を掲載している。</p> <p>○ キャラクターによる問いや説明を示している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「沖縄県の宮古島にある石碑だそうよ。『勇氣』『決断』と書いてある。どういうことかしら？」</li> <li>・「5人の男が小舟に乗って、荒波をこいでいる。宮古から八重山へ行くという意味らしい。星が輝いているね。」</li> </ul>

【社会（歴史的分野）】

育 鵬 社	<p>○ 大項目の導入において、1ページにより、絵図で歴史的事象や、全ての歴史学習の中のどの期間の学習をするかが分かる年表や、キャラクターの話し言葉を掲載している。さらに、見開き2ページで、歴史的事象を時代順に掲載し、キャラクターの話し言葉で学習への興味・関心を高めている。</p>	<p>「近代の日本と世界」</p> <p>○ 1ページ目で威臨丸の写真を示すとともに、この時代の学習範囲がわかる年表を示している。</p> <p>○ キャラクターによる問いや説明を示している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「威臨丸は、太平洋の荒波を渡って、サンフランシスコに向かったんだね。」</li> <li>・「どんな人たちが乗っていたのかな。どんな気持ちだったのかしら。」</li> <li>・「艦長は勝海舟でした。通訳のジョン万次郎や随員の福沢諭吉がこの船でアメリカに渡っています。」</li> <li>・「近代は、開国によって激動の時代をむかえます。勝や福沢らがどんな活躍をしたのか、学んでいきましょう。」</li> </ul> <p>○ 見開き2ページで、産業革命、ペリーの来航、尊皇攘夷運動、開国と幕末の動乱、大政奉還、明治維新、文明開化、殖産興業、鹿鳴館、自由民権運動、大日本帝国憲法の発布、日清戦争、日英同盟、日露戦争、韓国併合のイラストを時代順に並べている。</p> <p>○ 見開き2ページ目で、東京・銀座の絵図を掲載して、次のような吹き出しによる問いを示している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「大勢の人が生き生きとえがかれているね。」</li> <li>・「外国の町並みに似ているけど、気のせいかしら。」</li> <li>・「1872（明治5）年の銀座の大火事で、建物の多くが焼けてしまった、その教訓が町づくりに生かされたそうです。」</li> <li>・「開国によって日本はどう変わっていったのか、学んでいきましょう。」</li> </ul>
学 び 舎	<p>○ 大項目の導入において、見開き2ページにより、写真や絵図で歴史的事象を掲載している。また、それぞれの事象が関連する位置を、掲載した地図に示すことで、学習への興味・関心を高めている。</p>	<p>「世界は近代へ」</p> <p>○ 見開きで、欧米諸国で開かれた万国博覧会の様子を7枚の絵図や写真で示している。</p> <p>○ 博覧会が世界のどこで開催されたかわかるように、世界地図中の都市と絵図や写真を線で結んでいる。</p> <p>○ 近代の学習課題を示している。</p>

<b>観点</b>	<b>（イ）主体的に学習に取り組む工夫</b>
<b>視点</b>	⑤課題の設定、整理・分析、振り返りを展開するための構成上の工夫
<b>方法</b>	歴史を調べる手順・方法及び記載の仕方

	調べる手順・方法	記載の仕方
東 書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 テーマを決める</li> <li>2 調べる（図書室、図書館、インターネット、博物館、資料館、文書館、野外調査、インタビュー）</li> <li>3 考察しよう（グループ内で共有、提案、体験）</li> <li>4 まとめよう・発表しよう（年表、レポート、プレゼンテーション・ソフト、イラストマップ、ウェブページ）</li> <li>5 見直す（課題、反省点）</li> </ol>	<p>○ 「第1章 歴史のながれをとらえよう」において、「歴史の調べ学習をするには・・・？」という項を設けて、調べ学習におけるポイントについて記述している。堺市を例として示している。</p> <p>○ 各大項目の終わりに、「わたしたちの歴史探検隊 地域の歴史を調べてみよう」というコーナーを設け、調べ学習の例を提示している。</p>
教 出	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 情報を集めて、調査テーマを考えよう（人物、遺跡、行事、新聞記事、テレビ、博物館、図書館、インターネット）</li> <li>2 野外調査・聞き取り調査をしよう（撮影、スケッチ、録音）</li> <li>3 資料を活用して、調査をさらに深めよう</li> <li>4 調査したことを整理してまとめよう（発表作品作り）</li> <li>5 発表から新たな課題を見つけよう（メモ、振り返り）</li> </ol>	<p>○ 各大単元において、「郷土の歴史を探ろう」を5コーナー設け、身近な地域の調べ学習の例を提示している。</p> <p>○ 5つの調べる手順を、1コーナーで1つずつ示している。</p>
清 水	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 課題を探す（地図を見てみつけよう、外を歩いてみつけよう、ブレインストーミング）</li> <li>2 課題を調べる（図書館、インターネット）</li> <li>3 フィールドワークの準備（博物館、郷土資料館、メモ、カメラ）</li> <li>4 課題を深める（博物館や資料館）</li> <li>5 課題をまとめる（レポート）</li> <li>6 課題を発表する（ボード、模造紙、パワーポイント、画用紙）</li> </ol>	<p>○ 「第3章 近世の日本と世界」において、「身近な地域を調べよう」というコーナーを設けて、身近な地域の歴史について、更に深めて調べていく方法として、フィールドワーク（野外調査）におけるポイントについて示している。</p>

【社会（歴史的分野）】

帝国	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域の歴史を探そう</li> <li>2 テーマを決めよう（人物、建物・風景、遺跡・遺物、行事・風習、言い伝え）</li> <li>3 情報を集めよう（教科書、地域の副読本、図書館、博物館、インターネット）</li> <li>4 野外・聞き取り調査をしよう（建物、地形、石碑、カメラ、ビデオ、スケッチ）</li> <li>5 調べたことを整理しよう</li> <li>6 調査結果をまとめよう（レポート、劇、イラスト、新聞、テレビニュース）</li> <li>7 発表と意見交換をしよう</li> <li>8 調査をふりかえろう</li> </ol>	○ 「第1部 第2章 歴史の調べ方 まとめ・発表の仕方」という項を設けて、宮城県仙台市を取り上げた調べ学習において、ポイントを具体的に提示している。
日文	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 図書館やインターネットを利用して、調べたいことを確かめる（現地調査、ミュージアム）</li> <li>2 グループごとにテーマを決める</li> <li>3 歴史博物館で調べる</li> <li>4 調べたことを新聞形式にまとめ、学校のホームページにのせるなど、広く発表する</li> </ol>	○ 各大単元において、「でかけよう！地域調べ」というコーナーを設け、調べ学習の例を提示している。
自由社	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 疑問を出し合おう（グループ）</li> <li>2 図書館で調べよう（古地図）</li> <li>3 現地に行ってみよう（聞き取り、歌碑）</li> <li>4 調べた結果を発表しよう（レポート）</li> </ol>	○ 「序章 歴史のとらえ方」に「地域の歴史を調べる」という節を設けて、東京都渋谷区について、調べ学習の例を提示している。
育鵬社	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 出かける前の準備（調べるテーマを決める）</li> <li>2 調査に出かけてみよう（遺跡、史跡、博物館、郷土資料館）</li> <li>3 調べてきたことをまとめてみよう（ノート、模造紙、歴史新聞）</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「課題学習」博物館の見学のしかたの中で、調べ学習の例を提示している。</li> <li>○ 「課題学習」のコーナーにおいて、調べ学習の例を提示している。</li> </ul>
学び舎	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 何を見るのか、何を調べるのか、あらかじめ考えておきましょう。</li> <li>2 学芸員、説明員に積極的に質問してみましょう。</li> <li>3 わかったこと、次に調べたいことなどノートにメモしましょう。</li> <li>4 写真は許可をえてから撮るようにしましょう。</li> </ol>	○ 「歴史への案内」のコーナーにおいて、地域の博物館での調べ学習の例を提示している。

観点	(イ) 主体的に学習に取り組む工夫
	視点 ⑥作業的・体験的な学習を実施するための工夫
	方法 作業的・体験的な学習の具体例

	具体例
東書	○ 時代や年代を読み取ろう、歴史地図を見よう、系図を読み取ろう、絵巻物を見よう、図書室・図書館を利用しよう、インターネットを利用しよう、博物館で調べよう、年表にまとめよう、資料館で調べよう、図書館や文書館で調べよう、グループ内で共有して考えよう、レポートにまとめよう、プレゼンテーション・ソフトを使おう、野外調査をしよう、イラストマップを作ろう、ウェブページを作ろう、身近な地域の将来について提案しよう
教出	○ 新たなチームづくりにチャレンジしよう、干支や単位・資料を活用しよう、郷土の歴史を探ろう①（情報を集めて、調査テーマを考えよう）、資料から歴史を探ろう①、人物と地域から歴史を探ろう①、郷土の歴史を探ろう②（野外調査・聞き取り調査をしよう）、世界から歴史を探ろう①、郷土の歴史を探ろう③（資料を活用して、調査をさらに深めよう）、郷土の歴史を探ろう④（調査したことを整理してまとめよう）
清水	○ キャッチコピーづくりをはじめよう、遺跡から原始の時代を探ろう、資料を読み取ろう、絵画資料にみる人々の生活（絵巻を読みとってみよう）、人物を調べてみよう、身近な地域を調べよう
帝国	○ 身近な地域にひそむ歴史を探ろう、情報の集め方、野外・聞き取り調査の仕方、レポートのまとめ方、発表の仕方、系図の見方、しくみ図の見方、絵巻物の見方、資料をもとに歴史をとらえる、仮説を立てて歴史をとらえる、現在と過去の立場からとらえる、情報の意図を読み解く

【社会（歴史的分野）】

日 文	○ 系図の見方, 平城宮跡を歩く (史跡見学のしかた), 草戸千軒町遺跡を調べる (博物館の見学のしかた, 歴史新聞づくりのポイント), 城下町姫路を調べる, 富岡製糸場を調べる, 大阪の空襲を調べる (戦争遺跡の見学のしかた), 公害克服の歴史を調べる
自由社	○ 「○○の歴史」を調べる, 人物を通して時代をとらえる, 地域の歴史を調べる
育 鵬 社	○ 歴史人物Q&Aカードを作ろう, 縄文時代探検! (博物館で調べてみよう), 奈良・京都の文化遺産を調べてみよう, 城を探検してみよう, 歴史新聞をつくらう, 歴史のロールプレイをしてみよう
学 び 舎	○ 歴史を楽しく学ぼう (人物を選び, カードにまとめてみましょう, できごとや文化を調べてみよう), 火と人類の歴史をさぐる, 火おこしに挑戦する, スリーヒント・人物あてゲーム, インターネットで『洛中洛外図屏風』を見る, 地域の博物館で調べる, 地域の歴史を歩く, 綿から糸を紡ぐ, 山本宣治の人物調べ, 一人ひとりの歴史・家族の歴史 (年表にまとめる)

<b>観点</b>	(ウ) 内容の構成・配列・分量
<b>視点</b>	⑦単元や資料等の配列・分量
<b>方法</b>	各時代区分のページ数

	総ページ	歴史の とらえ方	古代	中世	近世	近代	現代	その他
東 書	299	14	44	34	44	98	37	28
教 出	291	9	38	34	44	104	32	30
清 水	307	9	52	32	56	102	28	28
帝 国	285	11	38	36	52	98	28	22
日 文	309	8	44	38	50	98	36	35
自 由 社	296	18	56	28	44	98	28	24
育 鵬 社	303	7	52	32	54	98	30	30
学 び 舎	330	6	46	32	56	112	38	40

<b>観点</b>	<b>(ウ) 内容の構成・配列・分量</b>
<b>視点</b>	⑧発展的な学習に関する内容の記載状況
<b>方法</b>	発展的な学習の事例数と事例及び思考を深める問いや手立て

	事例数	事例	思考を深める問いや手立て
東書	13	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各大項目に、「深めよう」というコーナーを設け、本文の学習と関連したテーマを読み物として扱っている。</li> <li>・現代に受けつがれる神話 ・考古学のとびら</li> <li>・東アジア世界の朝貢体制と琉球王国</li> <li>・室町時代の生活文化と現代 ・歴史の中のイスラム文化</li> <li>・江戸のエコ社会 ・「解放令」から水平社へ</li> <li>・足尾銅山と田中正造 ・北海道とアイヌ民族の歴史</li> <li>・全ての子どもに教育を ・現代の公害問題とその克服</li> <li>・歴史の中の大震災 ・人類の歴史とエネルギー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「トライ」という吹き出しがあり、「○○を調べましょう」「△△を考えましょう」「□□を整理してみましょう」等、学習を促す言葉を示している。</li> </ul>
教出	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各大項目に、「(資料・人物と地域・地域・世界) から歴史を探ろう」というコーナーを設け、本文の学習と関連したテーマを読み物として扱っている。</li> <li>・木簡が語る人々の暮らし ・坂上田村麻呂と阿豆流為の戦い</li> <li>・神話にみる古代の人々の信仰 ・地頭を訴える農民</li> <li>・中世の市を訪ねて ・働く女性や子どもたち</li> <li>・戦乱の世の自治と領国経営 ・銀で結びつく世界</li> <li>・宣教師が見た日本 ・大名行列と藩の財政</li> <li>・リサイクル都市・江戸の町人 ・坂本龍馬と横井小楠</li> <li>・改革や平等を求めて ・山川（大山）捨松と津田梅子</li> <li>・アイヌの文化を伝えた人たち ・海外へ移住した日本人</li> <li>・人口からみた日本の歴史 ・後藤新平と杉原千畝</li> <li>・隣国と向き合うために</li> <li>・平和を願う人々と平和の祭典「オリンピック」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 冒頭に「○○をもとに探ってみましょう」「△△を例に探ってみましょう」等、学習を促す言葉を示している。</li> </ul>
清水	14	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各大項目に、「もっと知りたい歴史」「歴史のとびら」というコーナーを設け、本文の学習と関連したテーマを読み物として扱っている。</li> <li>・植物と日本人 ・遺跡から原始の時代を探ろう</li> <li>・資料を読み取ろう ・神話と伝承</li> <li>・宮廷の女性と仮名文字 ・絵画資料にみる人びとの生活</li> <li>・アジアの船と海上交通 ・人物を調べてみよう</li> <li>・江戸のにぎわい ・世界見学に出かけた日本人</li> <li>・行き来する留学生 ・明治・大正期の食生活</li> <li>・証言・体験記録からみえてくる戦争</li> <li>・高度経済成長期の社会変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 冒頭に「○○に注目してみよう」「△△を探ってみよう」「□□を考えてみましょう」等、学習を促す言葉を示している。</li> </ul>
帝国	13	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各大項目に設けた「歴史を探ろう」や、2ヶ所に設定した「トリアル歴史」というコーナーで、本文の学習と関連したテーマを読み物として扱っている。</li> <li>・古墳からわかる当時のようす ・東アジアに開かれた窓口 博多</li> <li>・琉球とアイヌの人々の暮らし ・昆布ロードと北前船</li> <li>・世界有数の百万都市 江戸 ・世界に開かれた港 横浜</li> <li>・移住と開拓が進む北海道 ・発展する産業都市 大阪・神戸</li> <li>・長野県からみる「満州」移民 ・戦場となった沖縄</li> <li>・日本の領土と隣諸国 ・坂本龍馬暗殺のなぞ</li> <li>・島原・天草一揆に現れた外国船のなぞ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「疑問」という吹き出しに「○○はどうなっていたのかな?」「なぜ△△したのでしょうか」等の発問を示している。</li> </ul>
日文	18	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各大項目に、「先人に学ぶ」「歴史を掘り下げる」というコーナーを設け、本文の学習と関連したテーマを読み物として扱っている。</li> <li>・日本の食生活のルーツを探る</li> <li>・古代から中世への土地制度の移り変わり</li> <li>・東大寺の再興と重源 ・海底から姿を現した元の軍船</li> <li>・中世の女性たち ・信玄堤</li> <li>・幕府のはげ山対策と都市に住む人々のリサイクル</li> <li>・文化財を守り伝える仕事 ・新しい世の中をめざした人々</li> <li>・近代的な国際秩序への参加 ・近代社会に日本を見つめ直す</li> <li>・エルトゥールル号遭難事件 ・山本作兵衛の炭坑記録画</li> <li>・よみがえった東京駅 ・新渡戸稲造と杉原千畝</li> <li>・日本人の海外移民 ・アイヌと沖縄の近代と現代</li> <li>・災害の歴史に学び、私たちの未来に活かす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 吹き出しに「○○が無いかな調べてみましょう」という学習を促す言葉を示している箇所がある。</li> </ul>

【社会（歴史的分野）】

自由社	35	<p>○ 各大項目に、「もっと知りたい」というコラムを設けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岩宿遺跡を発見した相沢忠洋</li> <li>・和の文明 縄文</li> <li>・国譲り神話と古代人</li> <li>・「日本」という国名のおこり</li> <li>・仏像の見方</li> <li>・仮名文字と女流文学</li> <li>・日本の天皇と中国の皇帝</li> <li>・武士のおこりと鎌倉幕府</li> <li>・元寇と朝鮮半島</li> <li>・日本人の名字の由来</li> <li>・一揆と合議の伝統</li> <li>・宣教師の見た日本人</li> <li>・秀吉はなぜバテレンを追放したか</li> <li>・武士と忠義の観念</li> <li>・二宮尊徳と勤勉の精神</li> <li>・正確な日本地図をつくった伊能忠敬</li> <li>・町人が育てた歌舞伎</li> <li>・エコロジー都市 江戸</li> <li>・浮世絵とジャポニズム</li> <li>・明治維新とは何か</li> <li>・琉球処分とは何か</li> <li>・日本の近代化とアイヌ</li> <li>・幕末・明治期の日本人の生き方</li> <li>・福沢諭吉の『学問のすゝめ』と「脱亜論」</li> <li>・日露戦争を戦った日本人</li> <li>・明治国家を背負った政治家・伊藤博文</li> <li>・日本の実業家の伝統をつくった渋沢栄一</li> <li>・世界が見た日露戦争</li> <li>・大東亜戦争とアジアの対立</li> <li>・戦時国際法と戦争犯罪</li> <li>・占領下の検閲と東京裁判</li> <li>・日本の底力を世界に示した昭和39年の東京オリンピック</li> <li>・昭和天皇 国民とともに歩まれた生涯</li> <li>・勇気と友情の物語 世界と交流した近代日本</li> <li>・東日本大震災と日本人</li> </ul>	<p>○ 本文の学習と関連したテーマを読み物として扱っている。</p>
育鵬社	26	<p>○ 各大項目に設けた「このころ世界は」「歴史ズームイン」等のコーナーで、本文の学習と関連したテーマを読み物として扱っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ローマ帝国と日本の古墳時代</li> <li>・日本人の宗教観</li> <li>・歴史を解明する考古学</li> <li>・神話に見るわが国誕生の物語</li> <li>・最澄と空海</li> <li>・かな文字の発達</li> <li>・ユーラシアを一つにつないだモンゴル</li> <li>・戦国大名の富国策一信玄堤</li> <li>・幻の町・草戸千軒</li> <li>・ルネサンスと宗教改革</li> <li>・茶の湯と生け花</li> <li>・江戸時代探索！</li> <li>・浮世絵の影響</li> <li>・江戸の技術</li> <li>・世界文化遺産・富士山と日本人</li> <li>・外国人が見た日本</li> <li>・西郷と大久保がめざしたもの</li> <li>・近代国民国家の形成</li> <li>・日露戦争の舞台裏</li> <li>・明治を築いた二人 伊藤博文と渋沢栄一</li> <li>・お雇い外国人</li> <li>・昭和20年、戦局の悪化と終戦</li> <li>・列強の植民地とアジアの民族運動</li> <li>・東京裁判</li> <li>・国民とともに歩んだ昭和天皇</li> <li>・冷戦の終結</li> </ul>	<p>○ 吹き出しに「○○を調べてみましょう」という学習への促しや、「どんなことが分かるのかな」等、学習を促す言葉を示している。</p>
学び舎	6	<p>○ 各大項目に設けた「歴史を体験する」というコーナーで、本文の学習と関連したテーマでの体験活動を紹介している。また、歴史的事象との出合いの場面を、巻頭の「歴史への案内」というコーナーに設けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史と出会う—6月23日、沖縄で</li> <li>・火と人類の歴史をさぐる</li> <li>・インターネットで「洛中洛外図屏風」を見る</li> <li>・綿から糸を紡ぐ</li> <li>・山本宣治の人物調べ</li> <li>・一人ひとりの歴史・家族の歴史</li> </ul>	<p>○ 「考えてみよう」「○○してみよう」等、学習を促す言葉を示している。</p>

<b>観点</b>	(エ) 内容の表現・表記
<b>視点</b>	⑨学習内容との適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用
<b>方法</b>	資料の種類と掲載数及び折り込み年表の扱い

	資料の種類と掲載数（近世の日本）						折り込み年表の扱い
	写真	絵図	地図	図表・グラフ	年表	合計	
東書	58	70	18	23	3	172	教科書の巻末に、三つ折り両面の1枚で掲載
教出	45	67	13	20	3	148	教科書の巻末に、二つ折り片面の1枚と、三つ折り片面の1枚で掲載
清水	44	102	18	22	3	189	教科書の巻末に、二つ折り両面の2枚で掲載

【社会（歴史的分野）】

帝国	61	107	23	23	5	219	教科書の巻末に、二つ折り片面の1枚と、二つ折り両面の1枚で掲載
日文	54	90	26	31	6	207	教科書の巻末に、二つ折り両面の2枚で掲載
自由社	15	68	12	9	1	105	教科書の巻末に、5頁をとって掲載
育鵬社	40	102	17	23	3	185	教科書の巻末に、三つ折り両面の1枚で掲載
学び舎	46	117	21	13	1	198	教科書の巻末に、20頁をとって掲載

観点	(エ) 内容の表現・表記	
	視点	⑩本文以外の記述の工夫
	方法	問いやまとめの記載の仕方

	現代における問いの記載の仕方	現代におけるまとめの記載の仕方
東書	○ 毎時間、導入の資料に対する疑問を吹き出しで示している。 ・女の子が首から下げているのは何だろう。	○ 「確認」のコーナーを設けている。 ・敗戦後の占領下の日本の状況、次の三つの内容について説明しましょう。 [①領土 ②国民の生活 ③非軍事化]
教出	○ 毎時間、導入の資料に対する疑問を吹き出しで示している。 ・戦後の日本は、どのような様子だったのかな。	○ 「ふりかえる」というコーナーに、ステップ1、ステップ2を設けている。 ステップ1 ・日本の主権や民主化について、戦時中のポツダム宣言の条文とどのように対応するか確かめよう。 ステップ2 ・敗戦後の生活のなかで、人々はどのような思いや願いをもっていたか話し合おう。
清水	○ 導入の資料に対する疑問を吹き出しで示している。 ・戦争が終わり、人びとはどのような思いで戦後の生活を送っていたのだろうか？	○ 「まとめてみよう」というコーナーを設けている。また、内容によっては、「深めよう」のコーナーを設けている。 ・どのようにして日本の民主化が進められたのか、箇条書きであげてみよう。
帝国	○ 毎時間、導入の資料に対する疑問を吹き出しで示している。 ・連合軍の占領によって、日本はどのように変化したのかな。	○ 「確認しよう」「説明しよう」というコーナーを設けている。 <確認しよう> ・GHQが日本政府に指示した内容を、本文から書き出してみよう。 <説明しよう> ・敗戦が海外にいた人々に与えた影響を、説明してみよう。
日文	○ 毎時間、導入の資料に対する疑問を吹き出しで示している。 ・国連憲章には国連のめざすものは何と記されているのかな。	○ 「学習の確認と活用」というコーナーを設けている。 <確認> ・戦後の平和と民主化をめざす動きを、世界と日本に分けて整理してみよう。 <活用> ・GHQが出した五大改革の指令には、それぞれどのような意味があったのか、戦前の日本の状況を思い出しながら説明してみよう。
自由社	○ 毎時間、学習課題を示している。	○ 「まとめにチャレンジ!」というコーナーを設けている。 ・日本政府の行った民主化政策のうち、どれか1つを選んで、どのような改革であったか、調べてみよう。

【社会（歴史的分野）】

育 鵬 社	○ 毎時間、導入の資料に対する疑問を吹き出しで示している。 ・この写真を見て、当時の人々はどう思ったんだろう。	○ 毎時間、「学習のまとめ」のコーナーを設けている。 ・戦後に行われたさまざまな改革について、具体的な政策を3つあげて説明しましょう。
学 び 舎	○ 各章のはじめに学習課題を示している。 ・世界大戦終結から70年、かつてない豊かな社会が現れました。国境を越えて、人・情報・商品・金が動いています。そこには光と影があり、大きな課題もあります。全地球の動きに、地域の動きに目を向けます。あなた自身も生きてきた、現在につながる現代の課題を考えましょう。あなたは、どんな未来を切りひらくのでしょうか。	○ 各章の終わりに振り返りのコーナーを設けている。 ・第10章をふりかえる 経済成長と生活の変化 下の（ ）にことばを入れましょう。

観点	(オ) 言語活動の充実
視点	⑩多面的・多角的に考察させるための工夫
方法	単元末における多面的・多角的に考察させる具体例

多面的・多角的に考察させる具体例（中世）	
東 書	<p>○ 時代の特色を前時代と比べて「政治の動き」、「社会の動き」、「外国との関係」、「文化の特色」、等の項目ごとに「比較表」でまとめよう。</p> <p>○ 次の六つの語句は、この章で学習した用語です。どのような意味の用語か、自分の言葉でそれぞれ説明しましょう。うまく説明できない場合は、掲載されていたページにもどって確認しましょう。また、確認した用語を、下の年表の[A]から[F]のうちの、正しい位置に当てはめましょう。</p> <p>①二毛作 ②日民貿易（勘合貿易） ③モンゴルの襲来（元寇） ④院政 ⑤建武の新政 ⑥応仁の乱</p> <p>○ 右の模式図は、鎌倉幕府の仕組みを示したものです。模式図中の、空欄になっているアからエに当てはまる語句を答えましょう。</p> <p>○ 次の文章は、右の図から鎌倉幕府の政治の特徴について説明したものです。次の（ ）に当てはまる語句をそれぞれ答えましょう。</p> <p>○ 完成させた年表を基に、「政治」の欄から、政治を行った人物をぬき出しましょう。そして、中世の政治を動かしたのはどのような人々か、説明しましょう。</p>
教 出	<p>○ 本文や年表を参考にしながら、下の図の[A]～[J]にあてはまる語句を書き出そう。</p> <p>○ 次の人物と関わりの深いことがらを、下の図から探して結びつけよう。 【平清盛、源頼朝、北条政子、栄西、親鸞、フビライ=ハン、後醍醐天皇、足利義満、武田信玄、雪舟】</p> <p>○ 左の地図中に、次の場所を番号で記入しよう。 ①高麗 ②平泉 ③鎌倉 ④花の御所 ⑤首里城 ⑥蝦夷地 ⑦十三湊 ⑧博多 ⑨加賀</p> <p>○ 下の図を使って、源頼朝がつくり上げた封建制度のしくみについて説明しよう。</p> <p>○ 鎌倉時代と室町時代のできごとや様子を表す資料を、教科書からそれぞれ一つずつ選んで、二つの時代の共通点と違いについて説明しよう。</p> <p>○ 中世の特色について、「政治では」「外国との関係では」「文化では」といった項目ごとに分けてキーワードを使って表に整理して考えるような課題例を設定している。</p>
清 水	<p>○ 次の年表の1～10にあてはまるできごとやことがらを、下のア～コの中から選ぼう。</p> <p>○ 右の図のA～Dはそれぞれ年表中のどの時代のものか、文化の欄に記号で書き入れよう。</p> <p>○ 次の場所を地図で確認しよう。【鎌倉、博多、京都、吉野、琉球王国、堺】</p> <p>○ 写真を見て、中世の政治や文化の特色について考えてみよう。</p> <p>1. 中世の日本の文化にはどのような特色があるだろうか。上の写真を参考に、次の語句を用いて説明してみよう。【武士 公家 禅宗】</p> <p>2. 左の写真の人物はなぜ多くの武士の支持を受け、武家政治をはじめることができたのだろうか。次の語句を用いて説明してみよう。【御恩 奉公 御家人】</p>

【社会（歴史的分野）】

<p>帝国</p>	<p>○ 教科書をふりかえって、左の年表のア～コの空欄に入るものを、下の語群の中から選んでみましょう。 【鎌倉幕府、一向一揆、院政、後醍醐天皇、平清盛、勘合貿易、蒙古襲来（元寇）、応仁の乱、鎌倉仏教、金閣】</p> <p>○ 教科書をふりかえって、下の地図のあ～かの空欄に入るものを、下の語群から選び、さらにそれぞれの説明を、A～Fの中から選んでみましょう。 【平泉、鎌倉、十三湊、博多、大輪田泊、琉球】</p> <p>○ 中世で最も重要なできごととは何かを話し合い、「新聞記事」をつくってみましょう。</p> <p>○ 下の表現を使って、中世の特色を説明してみよう。 中世は（ ）の時代である。それは（ ）だからである。</p>
<p>日文</p>	<p>○ 年表中の①～⑤の□にあてはまる言葉を考えてみよう。また、歴史の主なできごとがどこで起こったのかを地図で確認しよう。</p> <p>○ 「法」に着目して、時代の特色にせまろう。 ・中世に定められた主な「法」に着目し、「制定された主な法」、「法の内容」、「目的」といった項目ごとに分け、古代と比較しながら考える課題例を設定している。</p>
<p>自由社</p>	<p>○ 時代区分についての姉妹問答</p> <p>○ 時代比較の問題 ・次の2つの事項について比較して、その違いをノートにまとめてみよう。 ①平氏政権と鎌倉幕府 ②鎌倉文化と室町文化 ③古来の仏教と鎌倉新仏教</p> <p>・人物比較 北条時宗と足利義満は、当時の中国とのかかわり方が異なっています。2人を対比して、表にまとめよう。</p> <p>○ 「ひとこと」作文 ・中世とは、ひとことで言うと、「○○」の時代だった。この「○○」の中に、当てはまりそうな言葉を入れて、200字程度の作文を書いてみよう。＜例＞ 武士 戦乱 和風文化 下剋上</p> <p>○ 意見交換会 ・貴族の政治と武家の政治は、どこがちがうだろうか。出し合ってみよう。 ・中世にできた惣のルールで、今の日本でも見られるところを出し合ってみよう。</p>
<p>育鵬社</p>	<p>○ 下の年表の空欄に当てはまる言葉を右の語群の中から選び、この時代の動きを確かめましょう。A～Hには人名が、①～③には事項が入ります。</p> <p>○ この時代の戦いについて、例を参考にノートに整理しましょう。</p> <p>○ 上の年表を見ながら、この時代で最も重要だと思う人物を1人選び、その理由も書いてみましょう。</p> <p>○ 下の(1)～(8)の文に当てはまる場所や地域を、地図A～Kから選び、位置を確認しましょう。</p> <p>○ この時代の人々の暮らしや社会がどうなったのか、このころのようすをえがいた下の絵を参考にして、前の時代の様子にもふれながら、説明してみましょう。</p> <p>○ この学習のまとめの作業を手がかりにして、この時代はどのような時代だったといえるのかを考え、その理由と合わせてノートに書いてみましょう。また、それぞれの考えをみんなで話し合ってみましょう。</p>
<p>学舎</p>	<p>○ 下の（ ）にことばを入れましょう。</p> <p>○ 右下の年表の①～④に関する問いの答え（都市名・国名）を、下のまとめの表に入れましょう。また、下の地図から都市や国の位置を記号で選び、まとめの表に入れましょう。</p> <p>○ 武士が成長して、「武士の世」になっていくみちすじを、10世紀（平安時代）から13世紀（鎌倉時代）までの人物やできごとに注目して、まとめてみましょう。</p> <p>○ 下の1～3の質問を参考にして、第2部にある絵画資料に説明をつけてみましょう。 1. いつごろの何をえがいたものだろうか。 2. 絵を観察して分かることは、どんなことだろうか。 3. どのような社会のようすや変化などが、背景にあるのだろうか。</p> <p>○ 中世は、どのような人たちが力を持ち、どのような特色のある時代だったのでしょうか。前の時代と比べながら自分の言葉で書きましょう。</p>

【社会（歴史的分野）】

<b>観点</b>	<b>(オ) 言語活動の充実</b>
<b>視点</b>	⑫目的に応じて適切に表現する力を育てるための工夫
<b>方法</b>	まとめ方の種類と具体例

	種 類	具体例
東 書	年表, 図, レポート, 比較表, プレゼンテーション・ソフト, ディスカッション, イラストマップ, 歴史新聞, ウェブページ, 年表, 提案	○ (章末に) イラストマップを作ろう <ul style="list-style-type: none"> <li>・だいすけさんたちは, 調べた内容を整理して, イラストマップにまとめることにしました。</li> <li>・文字だけでなく, イラストや写真を使って説明しよう</li> <li>・地図を作るときには, 説明のスペースを考えて構成しよう</li> </ul>
教 出	歴史新聞, キャッチフレーズ, ミニレポート, 仮想の討論会, 地図, 年表, 意見発表	○ (章末に) 近世の時代の特色を考えよう! <ul style="list-style-type: none"> <li>・あすかさんは, 江戸時代の特色について, 第4章の学習の初めに着目した「浮世絵(錦絵)」を取り上げ, 「民衆文化の時代」というテーマでミニレポートにまとめてみました。</li> <li>・あすかさんのミニレポートをもとに, 中世から近世にかけて, 文化の担い手がどのように変化したかを確認しよう。</li> <li>・近世の特色について, あすかさんの例を参考に, テーマを決めてミニレポートにまとめよう。</li> </ul>
清 水	図表, 地図, 年表, キャッチフレーズ, ボード, 模造紙, パワーポイント, レポート, 表	○ (1時間のまとめに) 鎌倉時代の文化の特色をキャッチフレーズで表現してみよう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・鎌倉時代の美術・文学作品をみたり読んだりして, 印象や感想を話し合ってみよう。</li> </ul> (1時間のまとめに) ヨーロッパの国ぐにが, それぞれどこの大陸や地域に進出したかを, 地図や図表にまとめてみよう。
帝 国	レポート, 新聞記事, 手紙, 図, メッセージ, 地図, 関係図・流れ図, 年表, 写真・イラスト, ホームページ, プレゼンテーション・ソフト, 意見交換, テレビニュース, 劇	○ (歴史学習の最初に) レポートのまとめ方 <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ・テーマ設定の理由 なぜ調べたかを書きましょう。</li> <li>・自分の推理 よくわからないこと・疑問点をはっきりさせ, 自分の推理や仮説を書きましょう。また推理の根拠となることを示しましょう。</li> <li>・わかったこと わかったことを大きな項目・小さな項目に整理しましょう。また, 証拠となる資料を写真・地図・年表・グラフなどで表しましょう。</li> <li>・結論 テーマについてわかったこと, わからなかったこと, 今後の課題を書きましょう。</li> </ul>
日 文	表, ホームページ, 歴史新聞, 年表, 模造紙にまとめる	○ (章末に) 調べたことをまとめる <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史新聞づくりのポイント 【基本設定】 だれに向けてどんなことを伝えたいのかを考える。 【紙面づくり】 調べたことを自分の言葉に書き直して記事にする。 文章以外に, イラストや写真を入れて, わかりやすい紙面を心がける。 新聞をつくって考えたことを書くコーナーを, 必ず設ける。</li> </ul>
自 由 社	年表, 人物カード, ミニ伝記, 人物伝記, レポート, 「ひとこと」作文, 意見交換会, 表, エッセイ, 絵図, 物語, スピーチ	○ (歴史学習の最後に) 日本の歴史の特色は何か <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本人は海外の先進文化に強い興味をもち, それをどん欲に学び, 取り入れてきました。しかし, 同時に, 自国の文化的伝統を見失うことなく, 独自に発展させたり, 外来の文化と融合させたりしてきました。 そうした日本の文化の歴史を, 古代から現代まで通してわかるように, 年表, 絵図, 物語, その他, あなたの好みの方法で工夫してまとめてみましょう。</li> </ul>
育 鵬 社	歴史人物Q&Aカード, 表, キャッチフレーズ, 歴史新聞, ロールプレイ, 400字程度の文章	○ (章末に) 当時の現場を想定して, 登場人物の心情を思い浮かべながら, ロールプレイに挑戦してみよう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイの手順 ①歴史の名場面を選ぶ ②その内容や時代背景, 登場人物などを調べる ③脚本をつくる(多少のフィクションがあってもよい) ④配役を決め, 練習をする ⑤発表会をする ⑥批評会を行う</li> </ul>
学 び 舎	人物カード, 年表, スリーヒント・人物あてゲーム, 表, 発表, ポスター, 意見交換, 地図	○ (章末に) 年表やポスターにまとめる <ul style="list-style-type: none"> <li>・まず, その人物と政治や社会の動きについて年表をつくってみました。その年表を入れたポスターをつくりました。写真やイラストなども入れて, 見やすくカラフルなものにしました。</li> </ul>